

学校法人 加計学園
平成18年度事業報告
【 倉敷芸術科学大学専門学校 】

I. 事業の概要（全般）

教育内容の充実と定員充足のために、今年度は、学生確保及び通常業務等で目標数値を設定し実施しました。結果、予算の範囲内で広報活動の質と量を20%増やすことができ、オープンスクールの参加者を昨年度比43%増やすことが出来ましたが、入学者数は昨年度比14%減りました。

平成19年度用入学案内を1月までには完成し高等学校新3年生に対し早い時期から配布できるなど、業務のスピードアップが出来ました。就職については良質の求人を約20%増やすことができ、昨年よりも早い時期に就職が決定していきました。

また、教務、学生指導を強化し、中途退学者を出さないこと、本校の特色の1つとしてマナー教育の強化を図りました。

認知度を広げ、学校としての信頼性を高めるために、陶芸・ガラス創作学科以外の学科でも附帯事業の講座を開きました。調理・フードコーディネート学科では、6月と7月に一般市民向けに介護食の公開講座を開きました。反響が良く、10月から高齢者介護食士2級の資格取得講座を開きました。製菓・製パン学科では、7月と9月に菓子の公開講座を開きました。

また、製菓・製パン学科、調理・フードコーディネート学科ともに、業界の第一線で活躍するオーナーシェフを招聘し、講習を行いました。

陶芸・ガラス創作学科では、従来の社会人向けコースに加え、夜間、土・日を開放し、プロを目指す社会人のコースを開講しました。また、本科では、新しい試みとして独自のホームページを立ち上げ、倉専ブランドの器「大平山窯」のネット販売を行いました。

II. 学校の概要

1. 学生の定員現員数

（平成18年5月1日現在）

課 程	定員数		現員数		
	入学定員	収容定員	1年	2年	合計
衛生専門課程 （調理・フードコーディネート学科、製菓・製パン学科）	80	160	56	45	101
文化・教養専門課程 （陶芸・ガラス創作学科）	20	40	7	5	12
合 計	100	200	63	50	113

（単位：人）

2. 学年暦

	春季休業	入学式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	卒業証書授与式
倉敷芸術科学大学専門学校	4月1日 ∩ 4月4日	4月5日	7月25日 ∩ 8月31日	12月24日 ∩ 1月7日	3月21日 ∩ 3月31日	3月23日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育・研究活動の進捗状況

(1) 資格取得・試験

調理・フードコーディネーター学科では、2年生全員（15名）が、調理師免許を取得、技術考査（調理）に合格、食品技術管理専門士の資格を得ました。また、フードコーディネーター3級の資格を8名取得しました。

製菓・製パン学科では、フードコーディネーター3級の資格を11名取得しました。

(2) 特別授業・研修その他

外部講師の特別講習を、製菓・製パン学科のみならず、調理・フードコーディネーター学科でも行いました。5月には、第一線で活躍するイタリア料理のオーナーシェフ有園悦郎氏を招聘し講習を行いました。11月には和食の羽村敏哉氏による講習を行いました。

製菓・製パン学科では、7月に有名パティシエの大谷和雄氏による講習を行いました。12月にはパンの松尾清史氏による講習を行いました。調理、製菓とも、学生の評価はきわめて高いものでした。

12月の海外研修は昨年以上に充実した内容で行いました。昨年以上の参加者（今年度32名、昨年25名）（調理・製菓）でした。また、陶芸・ガラス創作学科は沖縄の窯元で研修を行いました。

陶芸・ガラス創作学科では、11月に茶碗展を開きました。

2月には、加計美術館で「食と器のコーディネーター展」を開催しました。

スクールバス導入に伴い、学外研修にも力を入れ（例えば、5月13日（土）には、陶芸・ガラス創作学科が、兵庫県丹波篠山の「バーナードリーチ展」に見学しました）、教育の質の向上を図りました。

こういった教育は、学生が大きく視野を広げる結果となりました。

(3) 倉専FD委員会の発足

教職員の能力向上のため、倉専FD委員会を発足させ、外部より河野洋子先生の講演を聞くなど、教員の質の向上を図りました。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成18年5月1日現在)

	入学者	留学者	
		留学生	社会人
倉敷芸術科学大学専門学校	63	0	3

(単位：人)

卒業者数等一覧

	卒業 者	修了 者 ・	退 学 者	除 籍 者	休 学 者	留 年 者
倉敷芸術科学大学専門学校	50	10	0	0	0	0

(単位：人)

3. 学生の募集・広報活動

定員の完全な充足が最大の目標ですが、今年度の現実的な目標値とし、入学者数を昨年の20%増とし、募集活動を行いました。結果、入学者数54名と昨年度比14%減りました。

また、生涯学習講座、研究生等社会人を対象とした分野においても積極的に充実を図りました。

(1) 芸科大広報室との連携

今年度より、芸科大広報室と連携し、より効率的で成果のある広報を展開していくことになりました。本校教職員による高校訪問に加え、芸科大広報室による県内外の高校訪問を行いました。7月29日と30日には、芸科大と共催のオープンスクールを行いました。9月からは資料請求者への電話による広報活動を行いました。他に、ホームページの相互リンク、スクールバスの広告を行いました。

(2) ホームページの刷新

ホームページを見直し、魅力ある内容であると同時に最新の情報が得られるようにしました。そして、6月～8月のホームページ閲覧ページ数は昨年の50%増となりました。

また、陶芸・ガラス創作学科では、12月から、独自のホームページを立ち上げ、作品のネット販売を行いました。

(3) オープンスクールの見直し

オープンスクールの内容を見直し、できるだけ多くの参加者が出願に結びつくようにしました。全教職員によるオープンスクールを、年間22回行い、参加者数が昨年の43%増となりました。

(4) 高校訪問の見直し

過去の実績を分析し、訪問先の優先順位等を確定し、より効率的で、的確な高校訪問を計画、実行しました。また、家庭科・美術科の先生とのつながりを強化しました。

(5) 進学相談会・高校説明会等

業者企画の進学相談会等は、オープンスクールへの参加、出願へと結びつくよう生徒との接し方、生徒への説明の仕方などを、芸科大広報室の協力のもとに、改善を図りました。

(6) スクールバスの導入

朝夕、倉敷駅北側と本校とを、スクールバスで結び、立地の不便さを緩和させました。同時に、バスのラッピングにより、広告効果が上がるようにしました。

(7) 情報の共有化

職員室に広報活動の進行状況について掲示し、常に全員で情報を共有しました。

4. 就職活動状況

平成17年度の就職指導での反省を活かし、平成18年度では求人票の早期収集、早い時期からの就職指導等を行いました。

4月、5月は、各企業に対し、早期に学校案内、求人票を送付し、求人依頼をしました。

第1便として4月7日に、京都、大阪、神戸、広島、香川等、ホテル関係中心に78通を送付しました。続いて、県内企業にも送付し、依頼しました。以後、県内外に求人依頼を続け、最終の求人数は、119社、1683人となりました。

学生に対しては、挨拶、返事、言葉遣いなど社会生活の基本を指導するとともに、進路・就職希望調査の実施及び模擬面接、受験指導等を実施しました。

5月中旬からは、学生に対して、会社説明会、会社訪問の積極的参加を指導しました。

毎月の職員会議において、学生の動向、就職状況について報告しました。

10月からは、就職未決定者にガイダンスを実施し、意識の高揚を図り、就職活動をサポートしました。

12月には、1年生に対して就職ガイダンス、インターンシップについての心構えの指導を行いました。

その他、学園が主催する各種就職ガイダンスに積極的に参加しました。

結果、平成17年度に比べ、就職内定者の対前年度比が2%～14.6%増加しました。

5. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年 度 科 目	17年度決算額	18年度決算額
学 納 金 収 入	118,900	114,693
補 助 金 収 入	193	265
そ の 他 収 入	3,136	4,021
帰 属 収 入 合 計	122,229	118,979
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 989	△ 981
消 費 収 入 の 部 合 計	121,240	117,998
人 件 費	133,187	132,158
教 育 研 究 経 費	66,544	66,088
管 理 経 費	34,836	28,830
そ の 他 支 出	0	0
消 費 支 出 の 部 合 計	234,567	227,076

○収支改善対策の具体的取組と効果

学生の確保

(1) 全教職員が広報活動を行うと同時に、芸科大広報室との連携（芸科大広報室による高校訪問、芸科大とのオープンキャンパス共同開催等）を始め、ホームページ・オープンスクール・進学説明会、高校訪問等、広報活動の見直しにより、入学生の定員確保を図りました。オープンスクールの参加者数の増加など効果がありました。しかし、入学生の定員確保は出来ませんでした。

(2) 取得可能資格数の増加

調理・フードコーディネーター学科は、現在、調理師免許、フードコーディネーター3級、調理師養成施設調理実習助手、食品技術管理専門士の資格が取得可能ですが、さらに、資格取得の付加価値を付ける為に、「高齢者介護食士2級」の資格も取得できるよう、授業の中に組み込みました。

退学者の減少

個別面談、保護者面談、家庭訪問、面談記録の共有化、等の実施、担当者ミーティングを何度も開くなど、学生指導の改善、教育の質の向上（倉専FD委員会の活動等）により、中途退学者の減少に努めました。その結果、昨年度15名から今年度10名と効果がありました。

一般社会人向け講座の拡充

一般社会人向け講座を拡充し、収入を増やしました。

陶芸・ガラス創作学科では、土・日・夜間も開放した「創作研究科」を開設しました。

さらに、調理・フードコーディネーター学科では、高齢者介護食士2級の資格取得講座を10月より開始し、21名の受講があり資格を取得しました。